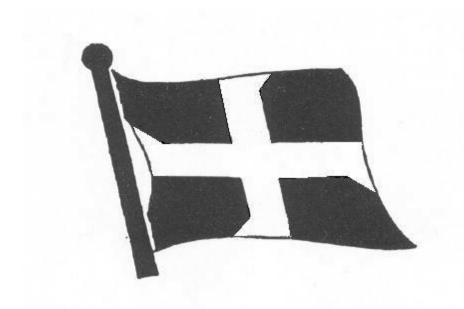
I NEWS

No.7

東大戦総括号

令和4(2022)年 10月5日発行



一目次一

①主将挨拶·女子主将挨拶·監督挨拶

②東大戦結果

③東大戦各競技総括

④その他ご報告

①主将挨拶·女子主将挨拶·監督挨拶

《主将挨拶》

去る9月21日に西京極にて東大戦が開催されました。結果は男女総合優勝で、目標を達成することができました。

男子について、事前ランキングでは優勢ではありましたが、東大に点差を詰められ三点差での勝利となりました。東大側の今年こそは何としても勝つという気迫に押されかけましたが、何とか逃げ切り今年も勝つことができました。

女子については全種目でスコンクを果たし、歴史的な大勝となりました。東大の選手層が薄かったこともありますが、この勝利は関西インカレ、七大戦に続いて今年の女子チームの強さを示した結果でしょう。

これで男子は5連勝、女子は3連勝と東大戦が「勝って当たり前の試合」になりつつあります。東大は来年こそはという思いでチームを強くしてくるでしょう。この当たり前を継続して油断することなく勝ち続けるチームを作っていってもらいたいと思います。この東大戦をもちまして齋藤主将、三好女子主将に代替わりします。来年度も関西インカレ、七大戦、東大戦と厳しい戦いが続きますが、「関西インカレ1部で戦い続けるチーム」を目指してのチーム作りを期待しています。

最後になりましたが、蒼穹会の皆様には大変お世話になりました。平日開催であった今大会にも大勢の方に応援に駆けつけていただき、熱いご声援をいただき、直接たくさん声をかけていただいたこと部員一同大変うれしく思っております。特に今回3年ぶりに蒼穹の歌を歌うことができたのは感慨深いものがありました。これからのチームに対しても変わらぬご支援ご声援のほどよろしくお願いいたします。

京都大学陸上競技部主将 眞鍋 聡志

《女子主将挨拶》

先日行われた東大戦では、男女総合優勝し目標を達成することができました。女子に関しては相手チームの選手が少なかったこともあり、全種目で 1、2 位を守ることができました。しかし個々の試合内容を振り返ると、対校戦としては甘い取り組みになってしまったとも思います。それぞれ試合計画がある中ではありますので、今後の取り組みにおいて狙い通りの結果を出し、シーズンを振り返ったときに東大戦の取り組みが生きたと言えるようにしてほしいと思います。当日は多くの蒼穹会の方々にお越しいただき、ご声援をいただき大変力になりました。本当にありがとうございました。

また関西学生女子駅伝については、全体で2時間1分44秒と、2時間切りにはわずかに届かない結果になりました。ここまでの過程、そして当日も、今できる最善は尽くしてくれたように思います。今回の経験をもとに、今後飛躍してくれることを期待します。

この東大戦と関西学生女子駅伝をもちまして、長距離を除く幹部が交代します。 齋藤主将と三好女子主将を中心として、一人一人が自分自身のためにもチームのためにもプラスになるような取り組みを続けてほしいと思います。

最後になりましたが、女子主将を務めてさせていただいたこの 1 年間、蒼穹会の皆様には大変お世話になり、本当に感謝しております。今後とも、現役部員への変わらぬご支援、ご声援のほどよろしくお願いいたします。

京都大学陸上競技部女子主将 小西 菜月

《監督挨拶》

9/21(水)にたけびしスタジアム京都(西京極)にて東大戦が開催されました。やや涼しいものの、カラッとした快晴で秋を感じさせるようなコンディションでした。結果は男女総合優勝を果たし見事、目標を達成いたしました。

男子に関しては、事前ランキングでは優勢だったものの、3 点差まで詰められる厳しい戦いとなりました。 東大側の逆転を狙うその気迫には苦しめられました。勝利の鍵となったのは、前半戦で走高跳に出場し PB を更新した田中(1)や、100m で優勝した吉田(4)の活躍でしょう。前半戦でアドバンテージを作れたことが後 半戦の粘りに繋がりました。

女子に関しては、1点も失点することのない完全優勝で、歴史的な大勝を飾りました。東大の女子選手が少ないゆえ、大勝は予想できていましたが、ここまでの差がつくとは驚くばかりです。東大側も女子選手が少ないのにも関わらず、伝統の対校戦の体裁を守るために専門外の種目にもエントリーしていただき、勝負をしてくれたことに感謝申し上げます。

最後になりますが、多くの方がお越しいただき、熱い応援を誠にありがとうございます。閉会式後に蒼穹会の皆様と、また以前のように蒼穹の歌を歌えたことを誇りに思います。今後とも変わらぬご支援ご声援のほど宜しくお願い致します。

京都大学陸上競技部監督 長谷川 隼

②東大戦結果(得点)

第 95 回東京大学・京都大学対校陸上競技大会 兼 第 21 回東京大学・京都大学対校女子陸上競技大会 令和4年 9 月 21 日(木) たけびしスタジアム(西京極)

〈男子〉

	京都大学	東京大学
100m	10	11
200m	8	13
400m	13	8
800m	12	9
1500m	7	14
5000m	6	15
110mH	8	12
400mH	11	10
5000mW	15	6
$4 \times 100 mR$	2	6
$4 \times 400 mR$	2	6
走高跳	15	6
棒高跳	10	8
走幅跳	13	8
三段跳	13	8
砲丸投	14	7
円盤投	11	10
ハンマー投	8	13
やり投	8	13
合計	186	183

〈女子〉

	京都大学	東京大学
100m	7	2
800m	7	2
走幅跳	7	2
400m	7	3
砲丸投	7	3
3000m	7	0
$4 \times 100 mR$	4	0
合計	46	12

③東大戦各種目総括

~短距離~

男子 100m

1着 吉田 悠樹(4) 10"72(+0.9)

4着藤浦敦士(3)11"18(+0.9)

5着室和希(4)11"39(+0.9)

男子 100m 決勝には、室(4)、吉田(4)、藤浦(3)が出場した。吉田が資格記録で頭ひとつ抜けており、それに続く東大勢を室と藤浦の 2 人が追う展開が予想された。吉田はスタートでやや出遅れたが、すぐにトップに立ちそのまま 1 着、藤浦は持ち前の後半の粘り強さを発揮し、PB をマークして4 着、室はスタートで飛び出したが、後半失速し6着だった。事前のエントリーから 2 人が交代したが、ランキングを死守した戦いとなった。(山田慎)

男子 200m

2着 吉田 悠樹(4) 22"05(+1.0)

5着 藤浦 敦士(3) 22"65(+1.0)

6着室和希(4) 22"92(+1.0)

男子 200m 決勝には、室(4)、吉田(4)、藤浦(3)が出場した。100m 決勝と全く同じ顔ぶれであり、室と藤浦は 4×100mR も走っていたことから、疲労が心配されるレースであった。吉田は前半でかなりのリードを奪ったが、ラストでかわされ 2 着、藤浦はいい入りを見せたものの、ホームストレートで失速し 5 着、室はスタートから精彩を欠き 6 着だった。事前ランキングを覆しはしたが、厳しいレースとなった。(山田慎)

男子 400m

1着 益田 椋多(2) 49.74

2 着 岩本 翔太(2) 50.33

5着 角谷 幸紀(3) 52.29

男子 400m には角谷(3)、岩本(2)、益田(3)が出場した。益田は前半から積極的な走りを展開し、強い向かい風をものともせずに第3コーナーで先

頭に躍り出ると、そのまま後方の東大の選手との 差を広げて1着。岩本は怪我もあり前半は後方で 落ち着いた走りをみせる。第3コーナーでじわり とペースを上げるとそのまま2番手を走っていた 東大の選手を猛追し、ラスト10mで差し切って2 着。角谷は大外のレーンを走ることとなり4コーナーで前方と離れる苦しい展開に追い込まれながらも後方の東大の選手を寄せつけず、そのまま5 着でゴール。ランキングを返して2点獲得した。 七大戦に引き続き対校戦での圧倒的勝負強さを見せた2回生コンビと、得点を返す意地の走りを見せた角谷のはたらきで、京大は13点を獲得した。 (平山)



2回生コンビの一角として実力で短長パートを支える益田(2)

男子 110mH

2 着 五十嵐 聖(2) 15"91(+3.2)

4着 中村 鮎夢(2) 16"85(+3.2)

岩崎 光起(3) DQ

京都大からは中村(4)、岩崎(3)、五十嵐(2)の3名が出場した。前半は東京大の高橋(3)と石田(2)が引っ張り、京都大の3選手が追走する展開でスタートした。資格記録1番手の高橋(3)が徐々に差を広げるも岩崎が食らいつき、差を詰めて追い付くかというところであったが、9台目でリード足をハードルにかけてしまい転倒、失格となった。2着にはハードルにぶつかりながらも大きな崩れなくまとめた五十嵐が入った。中村は隣のレ

ーンの石田と中盤から激しく競り合うも最後わず か及ばず4着となった。事前のランキングを返さ れ、悔しさの残る結果となった。(青柳)

男子 400mH

- 1着 高橋 昂生(1) 55.84
- 4着 金盛 圭悟(2) 56.36
- 5着新庄健(1)58.05

男子 400mH には新庄(1)、高橋(1)、金盛(2)が出場した。終始強い北風が吹いており、バックストレートでの向かい風への対応が勝敗を大きく分けた。新庄(1)は、前半とばす型の選手であり、5台目付近までは他の選手と互角のいい戦いをしてくれたが、前半での向かい風への消耗で後半に失速し、5位となった。高橋(1)は、感染症関係で直前まで練習が全く積めておらず、また足の怪我もあったが、なんとか1位を死守してくれた。金盛(2)は、前半の向かい風の影響により6台目で15歩から17歩に切り替えることになったが、なんとか後半をまとめて56秒台前半を出してくれた。最後は東大の2人に追いつけそうな距離にいただけに、4位という結果は悔やまれる。来年こそは1~3位を京大で独占したい。(岩崎)

男子 4×100mR

2着 京都大学 42.95

石原(1)- 藤浦(3)-長田(2)-室(4)

男子 4×100mR 決勝は、石原(1)、藤浦(3)、長田(2)、室(4)のオーダーで臨んだ。1 走の石原は、ケガを抱えながらもテンポの良い走りを見せ、東大とほぼ同時にバトンパス。2 走の藤浦も、先刻の100m 決勝での PB そのままに好走したが、3、4 走では、100m 決勝の2、3 位を配置した東大に大きくリードを取られ、大差で2 着フィニッシュ。ケガなどで多くのメンバーを欠いた大会ではあったが、短短パートの底上げの必要性を感じるレースであった。(山田慎)

男子4×400mR

2着 京都大学 3'19"95

岩本(2)-高橋昂(1)-角谷(3)-益田(2)

男子4×400mRは岩本(2)、高橋昂(1)、角谷(3)、 益田(2)のオーダーで臨んだ。レースは3走の角谷 まで抜きつ抜かれつで展開。しかし東大の4走の 選手がバックストレートで速度を抑え、ラスト 200mの勝負に持ち込まれる。追いかける展開だっ た益田には不利にはたらき、悔しくも2位となっ た。2校対校という特殊な試合で、東京大学の試合 運びが一枚上手であったといえるだろう。一方で 七大戦以上にラップタイムを向上させてきた選手 も多く、今後の成長への期待を感じさせる試合で あった。(平山)

女子 100m

1着 三好 紗椰(3) 12"80(+2.2)

2着 齋藤 虹香(1) 13"28(+2.2)

女子 100m には三好(3)と齋藤虹(1)が出場した。三好は今季レース数が多く、疲労が溜まり体に痛みも出ている中であった。それでも記録は安定しており、今回のレースも危なげなく1着でゴールした。齋藤は順調に力を付けており練習でも良い動きが増えたが、当日のレースでは本来の力を出し切れなかった。しかしタイムの水準は上がってきていて、東大選手にも圧倒的な差をつけてゴールした。(平岡)

女子 400m

1着 三好 紗椰(3) 1'02"69

2着 中野 直子(1) 1 '04"25

女子 400m 決勝には三好(3)と中野(2)が出場した。戦前のランキングでは三好が1位中野が2位であったが見事その順位を守り切った。バックストレートが向かい風という悪条件の中、両選手とも前半の走り方に苦戦し後半の失速を最小限に留めたものの満足いくタイムとはならなかった。ただ三好、中野ともに着実にスピードをつけてきて

おり今レースでの課題を踏まえての今後の PB 更 新に期待がかかる。(齋藤)

女子 4×100mR

1着 51"68

平松(1)-三好(3)-平岡(2)-齋藤虹(1)

女子 4×100mR には平松(1)-三好(3)-平岡(2)-齋藤虹(1)の走順で出場した。1 走の平松はスター ティングブロックの練習を人一倍行っており、バトンも良い位置で渡った。2 走の三好は 100m,400m を走った後かつ強い向かい風の中で あったが、最後まで粘りの走りをした。3 走の平岡 は、バトンを貰いながらの加速は上手くいったも のの後半伸びず、齋藤の加速を少し緩めさせてし まった。4 走の齋藤は 100m のレースでの動きが 少し修正された走りを見せた。

これまで詰まる形のバトンパスがほとんどだったが、今回は攻めのバトンパスをした。東京大学の棄権により1校のみの出場となったが、今後に繋がる、タイムや内容に拘ったレースとなった。(平岡)

~中距離~

男子 800m

2着 杉原 一冴(1) 1:58.43

3着 西川 洸平(2) 1:58.89

4着 島村 夏惟(3) 2:00.45

男子 800m には島村(3)、西川(2)、杉原(1)が出場した。レースはバックストレートが向かい風の中、スローペースで展開し 400m は 60 秒で通過。直後に飛び出した資格記録 1 位、東大の北岸(2)が集団を引っ張る展開となる。北岸の動きに反応して西川、杉原も追いかける姿勢を見せるが、バックストレートで北岸と離れ、両者で 2 着を争う展開に。第 3 コーナーで杉原が前に出てそのままゴール。島村は集団後方から虎視眈々と着順を狙い、400m 地点で前方に出ると単独走を臆せずにそのまま走りきり、4 着。京大は全員が位置取りに成功

し安定したレース展開を作り出した上で、ランキング通りの着順を守りきり、堅実に 12 点を獲得した。(平山)

男子 1500m

3 着 西川 洸平(2) 4:05.56

5着 川口 修大(4) 4:08.54

6着 小井 稜真(2) 4:26.04

男子 1500m には、川口(4)、西川(2)、小井 (2) が出場した。レースはやや遅いペースでスタ ートし、東大の二人を先頭に六人で一団が形成さ れた。そのまま 400m、800m とペースが変わらな いまま推移して行き、三人とも余裕を保っていた。 しかし、段々と小井の表情が苦しくなり、1000m 通過で少し離れ始める。ラスト一周の鐘が鳴った 所で先頭の東大・瀬川(4)らがペースアップを仕 掛け、西川と川口はそれに対応したものの、川口 は第三コーナー周辺で先頭と少し距離が開いた。 西川は直線に入ろうというところで東大勢との激 しい競り合いに挑むも、二位の越野(2)を捉えき れず三着、その数秒後に川口が五着しばらくして 小井が六着でゴールした。小井はレース後に競技 中に負傷したことが発覚した。結果的にはランキ ングを返すことはできなかったものの、川口がス ローな展開の中で自己三番目の記録を出すなど、 一定の成果は得られた。また、今回の出場者は川 口と瀬川を除いて全員が二回生だった。来年度以 降も対戦が予想されるため、冬季に更なる飛躍が 求められる。(服部航)

女子 800m

1着 小倉 唯愛(1) 2:32.89

2着 日野谷 レナ(3) 2:39.25

女子 800m には日野谷(3)、小倉(1)が出場した。 小倉はスタート直後から積極的に前を張り、400m 通過は 67 秒。単独走となり 600m 以降は足が動か なくなる様子を見せながらも順位は変動せずその まま 1 着でゴールし、大学デビュー戦を飾った。 日野谷は東大の選手の直後につく落ち着いた走り を展開し、ラストスパートで抜かすとそのまま危 なげなく 2 着でゴール。このレースで京大は 7 点 を獲得した。(平山)

女子 3000m

- 1着 石原 優花(1) 11:39.50
- 2着 周藤 紗季(2) 11:41.28

女子 3000m には東大の選手が出場せず、周藤(2)、石原(1)が出場した。試合は石原がペースを作り周藤がその直後を走る形で終始展開した。石原は安定したペースを崩さずゴール。周藤は惜しくも SBには届かなかった。京大はこの種目で 7 点獲得した。(平山)

~長距離~

男子 5000m

- 4 着 三嶋 友貴(2) 16:10.20
- 5 着 梅原 佑介(2) 16:15.18
- 6着 服部 来羅(1) 16:48.69

男子 5000m には梅原(2)三嶋(2)服部(1)が出場した。事前調査では東大 3 人のタイムが突出しており、厳しい展開が予想されていた。スタートから予想通り東大 3 人に京大 3 人がついていく展開となったが、1000m 付近でオーバーペースと判断した三嶋が先頭集団から離れ、2000m 付近で梅原と服部が遅れはじめる。その後、三嶋はペースの落ちた服部や梅原を拾っていきながら自己ベストを更新し 4 着、梅原は三嶋に離されたが自己ベストで 5 着、服部は後半大きくペースダウンし 6 着となった。1,2 回生で果敢に戦ったものの、東大との差を感じさせられるレースであった。(照山)

~競歩~

男子 5000mW

- 1着 原 圭佑(3) 22:38.22
- 2着 尾原 翔(3) 22:43.04
- 3着 池田 尚平(4) 23:16.63

男子 5000mW には池田尚(4)尾原(3)原(3)が出場した。序盤は尾原を先頭とし、京大 3 人と東大 1 人が先頭集団でレースを進める。その後 2600m あたりから東大の選手が遅れはじめ、2800m あたりからは池田尚も遅れはじめた。そこからはそれぞれ単独で歩くこととなったが、原はペースアップして自己ベストを大幅に更新、ランキングを返して 1 着でゴールした。また尾原はペースを維持し、池田尚はペースを落としながらも東大から逃げ切って、それぞれ 2 着、3 着でゴール、3 人で目標としていたスコンクを決めた。(照山)



自己ベストを大幅に更新しチームを鼓舞した原(3)

~跳躍~

男子走高跳

- 1等 山中 駿(2) 2m05
- 2 等 田中 颯真(1) 1m95
- 3 等 鴛原 泰輝(3) 1m90

男子走高跳には鴛原(3)、山中(2)、田中(1)が出場した。鴛原は足の怪我もあり、1m80をクリアした後パスをし、1m90を1回目でクリアさせ、4点を獲得した。その後 1m95もパスし 2m00に挑戦したが、惜しくも失敗となった。山中は先日優勝を果たした全日本インカレの疲労もあったと思われるが、2m05をクリアし、6点を獲得した。田中は1m90の1回目を失敗した後、2回目以降をパ

スし、自己ベスト更新となる 1m95 をこの高さ 2 回目で成功させ、5 点を獲得した。(吉冨)



鴛原、山中が見守るなか自己ベストを更新する大跳躍をした田中

男子棒高跳

1等 今西 直(4) 3m20

3 等 中川 遥仁(2) 2m60

深井 颯一郎 DNS

男子棒高跳には深井(2)、吉冨(1)の欠場により、今西(4)と中川(2)の 2 名が出場した。東大も同じく 2 名の選手が出場した。資格記録では今西が頭一つ抜けており、当日も 3m20 を軽々しく跳び、見事優勝した。その後自身の PB となる 4m00 に挑戦したが、惜しくも PB の更新とはならなかった。中川はおよそ 1 年ぶりの棒高跳への出場であったが、練習ではすぐに感覚を取り戻し、試合に臨むことができた。試合では倒れてきたポールによってバーが落ちるなど惜しい跳躍を見せながらも 2m60 を見事 3 回目で成功させ、4 点を勝ち取った。(吉冨)

男子走幅跳

1等 梶 慎介(3) 7m14(+2.6)

2 等 高橋 昂生(1) 7m02(+1.3)

5 等 齋藤 啓(3) 6m57(+0.8)

男子走幅跳には、梶(3)、齋藤(3)、高橋(1)が 出場した。梶(2)は2本目では7m05の公認記録 を残し、関西インカレのB標準をのこし、6本目 には、非公認ながらPBを超える7m14を記録し 1位となった。高橋(1)も、2本目で7m02の記録 を残し2位となった。齋藤(3)は怪我明けだった 影響などにより、資格記録を大きく下回る6m57 の記録で5位となった。(紀之定)

男子三段跳

1等 梶 慎介(3) 15m38(+1.6)

2 等 松井 和輝(1)13m74

3 等 齋藤 啓(3) 13m46(+2.3)

男子三段跳には梶(3)、斉藤(3)、松井(1)の3名が出場した。松井は本来の実力を取り戻しつつあり、調子も上がってきていたこともあり、2回目に13m79を記録し、UBを更新して3位になった。梶は3回目に14m91を記録し、1位になった。その後はファールなど、記録を残すことはできなかったがそのまま1位で競技を終えた。斉藤は6本全て安定して13m台の記録を残したが、ベストな跳躍をすることができず、松井の記録には及ばないまま4位となった。各々課題はあるが、対校戦としては東大に対して力の差を見せつけることができた。(杉本)

女子走幅跳

1等 小西菜月(4) 4m90(+2.0)

2 等 新保歩(2) 4m47(+2.7)

女子走幅跳には、小西(4)、新保(2)が出場した。小西は1本目、2本目から、非公認ながら、4m80、4m88の好記録を残し、4本目で公認のシーズンベストである4m90を記録し、1位となった。新保も、1本目、6本目において非公認ながら4m47を記録し、2位となった。(紀之定)

~投擲~

男子砲丸投

1等 眞鍋 聡志(4) 12m86

2 等 小森 隆史(2) 9m72

4 等 今西 直(4) 9m04

男子砲丸投には眞鍋(4)、今西(4)、小森(1)の3 人が出場した。 眞鍋は 12m86 という記録で優勝した。本人は 投げに納得していなかったが、それでも東大の追 随を許さない圧倒的な実力を発揮した。今西は一 投目、二投目とファールが続いた。しかし、そこ からしっかりと立て直し今季新記録である 9m04 を記録して 4 位で競技を終えた。小森も一投目、 二投目とファールが続いたが徐々に修正してい き、最終的には一回生ながら 2 位に入るという素 晴らしい結果を残した。(安藤)

男子円盤投

1等 眞鍋 聡志(4) 38m66

3 等 安藤 正貴(2) 29m53

6 等 今西 直(2) 22m86

男子円盤投には眞鍋(4)、安藤(2)、今西(4)が出場した。眞鍋は目標であった 40m こそ届かなかったが、ランキング通り他を圧倒した。安藤は東大との 2 位争いで最後に逆転され、悔しい結果となったが、6 本とも安定した記録を残しており、今後の飛躍が期待される。今西は前半の投擲でファールが続くなど流れを掴めず、悔しい結果となった。(田渕)

男子ハンマー投

2 等 眞鍋 聡志(4) 31m22

5 等 安藤 正貴(2) 21m43

6 等 小森 隆史(2) 15m18

男子ハンマー投には眞鍋(4)、安藤(2)、小森(1)が出場した。眞鍋は投げるごとに記録を伸ばし、最終投擲でベストを更新して順位を上げるなど、勝負強さを見せた。安藤は PB を達成したが、東大の好投もあり、ランキングを覆すことはできなかった。小森はハンマー投初挑戦でしっかり記録を残した。今後が期待される。(田渕)

男子やり投

3 等 今西 直(4) 46m46

4 等 眞鍋 聡志(4) 46m17

6 等 島村 夏惟(3) 36m79

男子やり投には今西(4)、眞鍋(4)、島村(3)が出場した。今西は一投目から好記録を残したが、多種目出場の疲労もあり、二投目以降での更新はならなかった。眞鍋も投擲種目に出づっぱりの中で40m後半を投げ、主将の意地を見せた。島村も800m直後の投擲で、他パートながらしっかりと記録を残した。3名とも京大の勝利のために大変な日程をこなしてくれた。(田渕)

女子砲丸投

1等 小西 菜月(4)10m31

2 等 篠田 佳奈(2) 9m83

女子砲丸投げには小西(4)、篠田(2)の 2 人が出場し、東大の選手に大差をつけ、1 位、2 位独占を果たした。

優勝を掲げて挑んだ小西の1投目は9m04。その後も篠田に一歩先を行かれる状況であったが持ち前の集中力と、1投ごとの改善により、最終投擲で見事10m31を投げ優勝。全身で喜びを表現した。



七大戦に引き続き多種目での活躍を見せた女子主将、小西(4)

一方の篠田は、7月末の七大戦で10m20を投げたことから、10m50を目標に競技に挑んだ。七大戦後は、砲丸投の練習頻度を上げ、グライドの習得に励んだ篠田の1投目は9m74。2等目、4等目でも記録を更新し、9m83を投げるも、小西の最終投擲で惜しくも優勝を逃した。来年の関西インカレでは「やり投と砲丸投の2種目で得点を狙う」と話しており、今後が期待される。(新保)

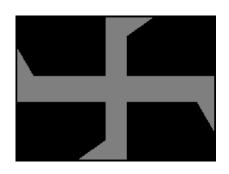
④その他ご報告

東大戦にお越しくださった OB、OG の皆様の名簿を以下に掲載いたします。残暑の中、足を運んでくださりありがとうございました。また、お越しいただいたにも関わらずお名前を頂戴することができなかった方にはこの場を借りてお詫び申し上げます。

本多了 S.34 渥美保 S.35 渥美裕子 S.35 三島宏夫 S.35 笹治峻 S.35 高林藤樹 S.36 鯉谷忠吉 S.41 藤原忠義 S.41 森本正幸 S.41 吉田基 S.42 勝村弘也 S.44 染川武博 S.45 井上達朗 S.47 池本忠司 S.49 桂総一郎 S.51 宮下欣二 S.51 眞野勝文 S.53 重村充男 S.54 三好稔彦 S.54 北村公亮 S.55 清水智志 S.57 熊谷元 S.59 清水裕美子 R.2 西川真悠 R.4

近藤泰子(公夫) 高林知子

(敬称略、卒部年度順)



蒼穹ニュース 令和4年度 第7号 令和4年 10月5日発行

発行所:京都大学体育会陸上競技部

編集者:紀之定玲司·平山悦章·益田椋多(副務)

特別協力: 高重広·平林里和子·高山兼輔(学連員)

写真担当:五十嵐聖·松本良平·三嶋友貴(写真係)

陸上競技部 HP http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/
陸上競技部記録 HP http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/kiroku.htm
関西学連 HP http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm
メールアドレス hiryama.yoshiaki.33c@st.kyoto-u.ac.jp(平山)